

締めは着物にだけ。帯板は帯を巻いた後に入れていきます」

どれもシンプルだけれど、ひとつひとつの道具にはこだわりがある。とくに伊達締めは、幅の広いタイプを使うようになってから着崩れしにくくなったことを実感し「道具を替えるだけでこんなに着つけが変わるのか」と驚いたという。さらに、「補整をやめたのは5年前。コロナ禍で人に会う機会が減り、自宅でのふだん着物がメインになったので、見映えより着心地を十分に楽しもうと思って」と山崎さん。そこから、より快適な着方や素材を探そうになった。「まず替えたのは下着。スリッパは直接肌に触れるから、肌なじみの良い天然素材で汗をしつかり取ってくれるものを選ぶようになりました。道具は本当にいろいろ試したけれど、しばらくは今の着方が続くかなと思っています」

山崎さんのように、自分なりの正解が見つかったら、着ることがますます楽しくなりそう。

下/山崎さんの、補整なしで体に沿った美しい帯まわり。「らくで素早く、着心地よく。完璧じゃなくても赤点でなければOK」という思いで着つけているそう。



左/長さが短い帯板は、帯の巻き終わりにすっと入れやすい。「小柄できゃしゃな人にはとくにお薦め」と山崎さん。中/肌に直接触れる肌着は、着心地で選びたい。愛用しているスリッパは、身頃は綿100%で少しシボがあり、涼感がある。Sサイズがあるのも◎。右/写真手前が通常幅、奥が広幅。広幅の伊達締めは帯板とほぼ同じ幅。ホールド感が気持ち良く、着崩れにくい。山崎さんは夏は普通幅の紗の伊達締めも使用。



一般的な伊達締めの幅が約10cmのところ、この伊達締めは約13.2cm。面積が広い分、着物をしっかりと押さえてくれて着崩れ防止に。綿100%だからそのきゅっと締まる心地よい感覚もポイント。博多織の献上柄で、淡い色合いの3色から選べる。

伊達締め 広幅献上柄  
各1万3200円(税込み)  
お買い上げは→112頁



なめらかな肌触りの超長綿繊維・スーパーコットンでつくられたスリッパ。身頃は綿100%で吸水性も通気性もバツグン。ゆかたのインナーに着れば、袖のレースがちよっとしたあしらいになり見えてもきれい。冬場の静電気も起きづらいなど、年中大活躍。

スーパーレース付きスリッパ  
1万3200円(税込み)~  
お買い上げは→112頁



長さが33cm、幅が13cmとコンパクトな「糸正」の短め帯板。長さが短いからこそ帯の巻き終わりに差し込みやすく、着崩れ防止に。着姿がやわらかい雰囲気になるので、名古屋帯はもちろん、半幅帯などカジュアルなスタイルに最適。

短め帯板  
各1210円(税込み)  
お買い上げは→112頁



「体を締めつけるものが少なければ少ないほど快適」という山崎さん。短めの帯板なら、着姿はきれいにキープしながらも、脇や背中がらくなのだからか。